令和7年度 奈良県 英語教育改善プラン

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成

ー児童・生徒の英語コミュニケーション能力の育成を目指してー

目標

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている割合（参考：英語教育実施状況調査より R5:89.1%）
- ②「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の実施（参考：英語教育実施状況調査より R5:100%）

未だ改善が必要な点

- ①「英語の勉強は好きですか」
R5:65.7%(全国:69.3%)
R6:64.7%(全国:69.3%)
- ②「英語の授業の内容はよくわかる」
R6:56.9%(全国:68.8%)
- ③一定の英語力を有する小学校教員の新規採用数（R5 9人⇒R6 14人）

2. 要因分析

- ①「英語専科教員連絡協議会」を継続して実施している。「言語活動」をテーマに講義・実践発表・協議を重ねてきた成果だと考えられる。
- ②英語教育に関する各種研修での講義等により、指導と評価の一体化への理解が進んだ結果だと考えられる。

- ①②英語の勉強が大切だと思う児童の割合が高い(R6:91.6%)一方で、英語嫌いや理解度との乖離がある。各種研修等での学びを広く共有し、実践につなげるには、未だ発展途上にあると考えられる。
- ③一定の英語力を有する小学校教員の確保がうまく進んでいない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②について

英語専科教員を各地域の核として、県内各校における言語活動への理解が図られるよう、「英語専科教員連絡協議会」を継続して年に2回開催する。

連絡協議会において言語活動の充実や指導と評価の一体化に主眼を置いた県内教員による実践発表を行う。また、英語担当教師間の連携を強化するため、参加教員による協議の時間を設定し、各校における実践を交流し、さらなる指導の充実を目指した研修の機会とし、教員の指導力向上を目指す。英語専科教員のためのGoogle Classroomを開設し、英語専科教員が気軽に情報共有・交流できる場を確保する。

学習指導要領に基づく教育課程の編成及び実施上の課題等について研修する機会として「教育課程研究集会」を開催し、各校の教育の改善及び充実を図る。

③について

小学校英語選考や中学校英語免許状を所有している者、一定の英語資格を有する者への加点制度の設定を継続することにより、確保に努める。

参考URL：[https://www.pref.nara.jp/secure/280388/\(04sho_gaikokugo\).pdf](https://www.pref.nara.jp/secure/280388/(04sho_gaikokugo).pdf)

令和7年度 奈良県 英語教育改善プラン

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成

－児童・生徒の英語コミュニケーション能力の育成を目指して－

○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 45.3% ⇒ R7 : 50%)

目標

■ 言語活動 □ 指導と評価の一体化 ■ 教師の英語力・指導力 □ 校種間連携 □ ALTの参画 □ ICTの活用 □ AIの活用 □ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 英語担当教員の英語力 (CEFR B2レベル相当以上を取得)
R5:40.1%⇒R6:47.4%
- ② CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒
R5:43.5%⇒R6:45.3%

未だ改善が必要な点

- ① 生徒の言語活動等の取組状況
・「自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動」
R5:51.0%(全国:63.8%)
R6:56.9%(全国:68.8%)
・「まとまった内容を英語で発表する活動」
R5:63.9%(全国:78.7%)
R6:69.6%(全国:82.4%)
- ② ICT機器の活用状況
「発話や発音などの録音・録画」
R6:84.5%

2. 要因分析

- ① 令和4～6年度で実施された英検IBAにより、英語担当教員が自身の英語力を意識する機会につながり、自己研鑽に励んでいると考えられる。
- ② 英検IBA等を通じて、生徒の英語力を適正に把握し、個に応じた支援が進み、生徒の英語力向上につながったと考えられる。

- ① 言語活動を通じた学びの充実についての理解が進んでいない。特に生徒が自分の考えや気持ち等を表現する言語活動において、授業改善が進んでいないことが伺える。
- ② ICT機器の活用は着実に進んできているが、機能を有効に活用した授業事例の共有がさらに必要であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①について

教員の英語力向上を図るために、外部検定割引制度の活用や、研修の周知に努める。また、各種研修会において、自身の英語力の向上に努めるよう呼びかける。

②①②について

学習指導要領に基づく教育課程の編成及び実施上の課題等について研修する機会として「教育課程研究集会」を開催し、各校の教育の改善及び充実を図る。

また、全校を対象とした「生徒の英語力向上研修」の実施を継続する。生徒が自らの考えを表現する、話すことの「やり取り」、[発表]の言語活動に重点を置いた研修内容とする。言語活動を通して指導することについて授業改善を進め、生徒の英語力向上につなげることを目的とする。英語担当教師間の連携を強化するため、参加教員による協議の時間を設定し、各校における取組の共有の時間を確保する。また、ICT機器の適切な活用によりよい充実のために、「AIの活用による英語教育強化事業」モデル校による実践やデジタル教科書を活用した事例を共有する機会を確保していきたい。

参考URL :

<https://www.pref.nara.jp/secure/313327/gaikokugo.pdf>

令和7年度 奈良県 英語教育改善プラン

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成～「話すこと」「書くこと」の発信力強化～

目標

○CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6: A2以上 56.5%、B1以上 19.2% ⇒R7: A2以上 57%、B1以上 25%)

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業における、生徒の英語による言語活動の割合

(R5:66.7%
⇒R6:77.4%)

②英語担当教員の授業における英語使用状況

(R5:55.3%
⇒R6:58.5%)

未だ改善が必要な点

①スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合

(R5:49.5%
⇒R6:46.1%)

②CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合

(R5:20.4%
⇒R6:19.2%)

2. 要因分析

①「指導と評価の一体化」による授業改善を進めるため、CAN-DOリスト及び年間指導計画の提出をもとにフィードバックを行い、年間を見通した指導と生徒の言語活動を中心とするさらなる授業改革を促進した。

②教員の英語力・指導力に係る研修講座をR6まで継続して実施した。さらに、英語力・指導力向上オンライン研修受講者による研修成果や授業実践の発表機会を設け、教員の研修機会とした。

①評価にかかる労力や時間等の課題から、その重要性を認識しつつも、パフォーマンステストによる評価を避ける現状がある。

②授業内外、学校内外において、英語を使ってコミュニケーションをする状況や場面を提供する機会が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「指導と評価の一体化」による授業改善の継続

CAN-DOリスト、年間指導計画の提出、共有、フィードバックのサイクルを継続する。教員が意欲的に授業改善できるよう、教育課程研究集会や学習指導研究会等において啓発や助言を継続する。

②教員研修の工夫・充実

教員の英語力については一定の成果が見られるため、指導力の向上に焦点をあて、大学との連携により、生徒の言語活動を促進する実践的な指導力や英語による指導のあり方に関する研修を実施する。また、中高連携による校種を越えた授業観察、授業研究を実施する。

①観点別評価の実施に関する研修

学習指導研究会において、評価に関する実践発表を行い、研修機会とする。「話すこと」「書くこと」の発信力を育成するために必要な指導と評価について協議し、授業、評価の改善につなげる。

①生成AIの活用

「話すこと」「書くこと」について、十分な練習機会の提供、評価やフィードバックにかかる負担軽減のため、生成AIの効果的な活用についての実践研究を行い、パフォーマンステストを積極的に取り入れられる環境づくりを進める。

②英語で議論ができるグローバル人材の育成

県内の留学生との交流や、WWL事業における「高校生国際会議」の開催 (R4～) 等、授業外で高校生が実際に英語を使う機会を設け、英語で意見交換ができる生徒の育成を目指す。

奈良県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	52.1	54	56.5	57		58		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	25	20.4	23	19.2	25		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	66.7	70	77.4	78		80		82		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	49.5	100	46.1	100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	69.6	72		74		77		80	
		達成状況の把握(%)	80	52.2	55		60		65		70	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	70	78.9	80	81	83		86		90			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	55.3	60	58.5	65		70		75			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	43.5	50	45.3	50		55		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	49.5	75		75		75		75		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	97.7	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	78.6	100		100		100		100	
		公表(%)	70	38.8	70		70		70		80	
		達成状況の把握(%)	80	55.3	80		80		80		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	40.1	50	47.4	50		55		60		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	36.6	75		75		75		75			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	85	67	85		85		95		100
		公表(%)	30	21.3	30		45		60		75
		達成状況の把握(%)	65	47.9	65		65		75		85